

# ティーチング・ポートフォリオ

湘南医療大学 薬学部 医療薬学科

江川 大地

2023年9月30日

## 1. 教育の責任

私は本学の薬学部医療薬学科及び保健医療学部看護学科において、これまでに「天然薬物学実習」や「生物学」などの科目を担当してきました。具体的には、「天然薬物学実習」は薬学部医療薬学科の3年生対象の必修科目として、一方「生物学」は保健医療学部看護学科の1年生向けの選択科目として教鞭をとってきました。教育活動としては、薬学部医療薬学科の2023年度入学生のチューターとして生活面や学修の支援を行う一方、学科内では大学内の清掃活動の責任者や、植物園の委員を行ってきました。

これらの教育活動を通じて、私は学生たちの学びの場を整える役割を果たしてきました。具体的には、授業内での深い議論の促進や、チューター活動を通じた学外の学びのサポート、そしてコミュニティづくりに尽力してきました。私の責務は、学生たちが安心して学び、自己成長できる環境を提供することにあります。これからも、本学の教育活動を通じて、学生一人ひとりの成長を最大限にサポートすることを心がけてまいります。

## 2. 私の理念・目的

### 1) 私の理念

教員としての私の理念は「共に学び、共に成長する」ことにあります。私は、教育の場は一方的な情報の伝達ではなく、学生と教員双方が互いに学び合い、高め合う場であるべきだと信じています。この信念のもと、授業では互いに意見を尊重し、多様な視点を受け入れることを重視しています。

私の教育手法の特徴として、双方向のコミュニケーションを大切にする点が挙げられます。講義では、単に教科書の知識を伝えるだけでなく、医療現場での事例や問題点を取り入れ、学生たちとともに深く考える時間を設けています。また、今後の授業には、ディスカッションやグループワークを頻繁に取り入れ、学生同士の協働を促しています。

大切にしていることの一つに「学生の主体性」があります。私は、学生たちが自らの興味や関心に基づき、能動的に学びを追求することが、真の教育の本質だと考えています。そのため、課題提出の際には、彼ら自身の意見や解釈を尊重し、多角的な視点からのアプローチを奨励しています。

私から学生への期待としては、教育の場で得た知識や経験を、薬剤師として社会に貢献するための力として活用することです。大学の6年間は、自己を磨くための大切な時間ですが、それだけでなく、周りの人々や社会全体をより良くするための力を身につける場でもあります。私は、学生たちがその意識を持ち、社会に出てからも絶えず学び続け、多

様な価値観を尊重しながら、自らの役割を果たしていくことを心から願っています。

このような理念のもと、私は日々の教育活動に取り組んでいます。学生たちと共に、新しい知識を探求し、互いに高め合いながら、より良い未来を築くための手助けができるよう、努力してまいります。

## 2) 理念をもつに至った背景

私の教育に対する理念は、実際の教育現場の経験とともに、私自身が学生時代に経験した出来事に起源を持ちます。大学生の頃、私は指導教員である教授のもとで学びましたが、その教授は単に情報を伝えるだけでなく、常に学生の意見や考えを重視し、授業を豊かなディスカッションの場としていました。その結果、私たちは単に知識を受け入れるだけでなく、自らの思考や意見を形成するプロセスを経験しました。この体験が、私にとっての教育の真髄を感じさせるものでした。

また、卒業後、初めて教職に就いた際、多くの学生たちが受動的な学びのスタンスをとっていることに気付きました。この現状に対して、私は学生たちに能動的な学びの姿勢を持ってもらうための環境作りが必要だと感じ、そのための教育方針を模索し始めました。

これらの経験を通じて、「共に学び、共に成長する」という理念を持つに至りました。私は今も、その思いを胸に、教育活動に取り組んでいます。

## 3. 教育の方法・戦略

私は教育経験が浅いため、実際に行っている方法ではなく、目指している教育の方法と戦力について記載します。教育方法は、学生の能動的な学びを促進することを中心とした構築を目指しています。教育の戦略として、授業の全体的な流れで、理論や基本的な知識の伝達を行い、次にその知識を実際の事例や状況に適用するディスカッションやグループワークを行います。このプロセスを通じて、学生は単に知識を受け入れるだけでなく、それを実際の状況に応用する思考力や判断力を養います。

具体的な教育方針とその具体化方法は以下の通りです：

### 1) 能動的な学びの促進

- ディスカッションやディベートの時間を多く取り入れる。
- 学生に事前にトピックに関する質問や課題を出題し、自ら調査や考察をして授業に臨むよう指導する。

## 2) 実社会との連携

- 実際の医療現場で働いた経験を、講義や実習内容に活かす。
- 学外でのフィールドワークや実習の機会を増やす。

## 3) 教材の工夫と開発

- オリジナルの教材や教科書を用意し、学生の理解を深めるためのビジュアルやインタラクティブな要素を加える。
- デジタルツールを活用して、オンライン上での協働や研究活動をサポートする。

## 4) 授業以外の諸活動

- 学外での学習イベントやワークショップを定期的で開催する。
- 学生の自主的な学習グループやプロジェクトをサポートし、場所や資材を提供する。

## 5) 自己研鑽

- 最新の教育手法や研究に関するセミナーや研修に参加する。
- 他大学や機関との連携を深め、最新の教育情報やトレンドを取り入れる。
- これらの方法を通じて、私は学生の能動的な学びをサポートし、彼らが社会に出てからも絶えず学び続ける姿勢を持ち続けられるよう努めています。

## 4. 学習成果

教育活動を通じて、学生たちの学び方は一人ひとり異なることを痛感しました。特に、アクティブラーニングを取り入れた際、学生の主体的な参加が深い理解を生むことを実感しました。また、デジタルツールの活用によって、従来の授業形式の制約を超え、時間や場所に縛られない学びが可能になることを発見しました。これらの経験から、柔軟な教育方法の導入の重要性を再認識しました。

## 5. 改善のための努力

### ● 学生からのフィードバックの収集不足

定期的なアンケートを実施し、オンラインシステムを活用して即時に学生の声を収集できるようにする。

### ● 授業内容のアップデート

最新の研究成果や社会的動向に基づき、毎年カリキュラムを見直し、必要に応じて内容を更新する。

- **授業外サポートの不足**

オフィスアワーやオンライン Q&A セッションを設け、学生の疑問や課題を個別にサポートする。

これらの改善項目を明確にし、具体的なアクションをもって、教育の質の向上を目指してまいります。

## 6. 今後の目標

### 短期目標（2024年9月まで）：

2024年度前期の生物学の講義にて、グループワークとアクティブラーニングの導入を実現します。具体的には、講義時間のうち3割程度を最新の社会情勢を反映させた討論を行い、各班による発表を行うことを目指します。さらに、オンライン授業のフィードバックシステムを導入し、学生からの意見を即時に取り入れる体制を整えます。

### 長期目標：

持続可能な学びの環境作りを進め、教育の質の向上を図ります。これには、カリキュラムの見直しや教材の更新、さらには学外の機関や業界との連携を深めることで、学生たちに実社会との接点を増やす取り組みを推進します。この活動を通じて、学生たちが社会に出ても変わりゆく時代に柔軟に対応できる力を身につけるサポートを行います。

### [添付資料]

- 1：講義科目（シラバス）
- 2：社会活動としての講演
- 3：講義資料プリント例
- 4：講義資料スライド例
- 5：学生の試験解答例
- 6：学生のレポート例